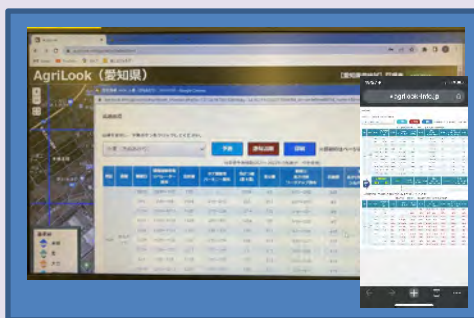


【全体概要】

本県では、小麦が約5,500ha作付けされている。品質を確保しつつ、収量を高位安定させるためには、施肥、防除、収穫等の適期作業の確実な実施が求められる。そこで、収量・品質の高位安定化を図るために、愛知県農業総合試験場らが開発した「ICTを利用した小麦の生育予測技術」の現地適応性を検討する。

新品種・新技術等の概要

- 愛知県農業総合試験場が、愛知県経済農業協同組合連合会（JAあいち経済連）等と連携し、メッシュ農業気象データを使うことにより、1キロメッシュ単位で小麦の生育を予測できる技術を開発した。



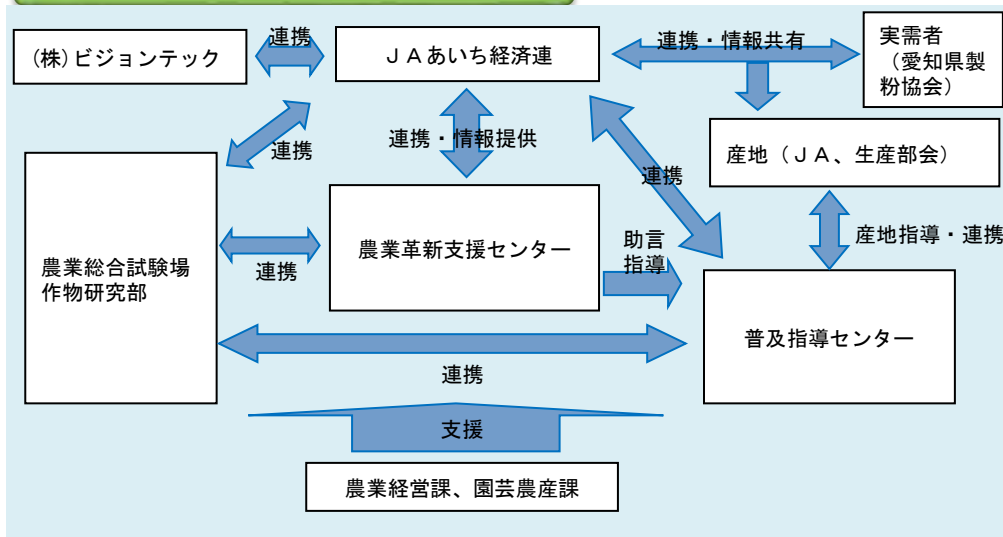
小麦生育予測技術を組み込んだ
作物栽培管理支援ツール
左:パソコン画面、右:スマートフォン画面

- 対象小麦品種
きぬあかり、ゆめあかり
- 予測生育ステージ
莖立期、出穂期、成熟期等

主な取組内容

- ICT技術利用検討会において、設計・成績について検討
- 検証ほの設置(R3年産57、R4年産54、R5年産54カ所)
- 生育ステージ予測(莖立期、出穂期、成熟期等)の確認
- 実測日と予測日を分析し、適合性を検証、誤差が大きくなったほ場の環境・栽培条件の整理
- 生産者向け「利用マニュアル」及び産地に向けた「生産現場への普及に向けた手引き」を作成。

实施体制図



実績と今後の展開

- 県内活用状況
 - ・ すべての小麦産地JA、普及指導センターが栽培指導に活用している。
 - ・ 一部の生産者が外部ソフトと連携させて、本技術の予測情報を直接入手しはじめた。
- 今後の展開
 - ・ 検証の継続
 - ・ 生産者へのより効率的な伝達手法の確立
 - ・ 生育に応じた施肥管理のための生育診断手法の確立